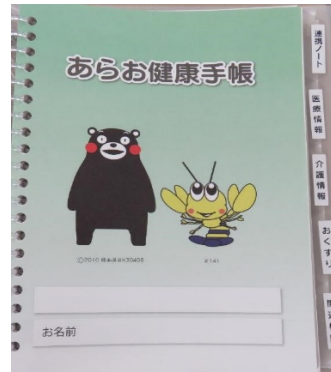




シロチドリ

令和2年12月15日発行

あらお健康手帳がグッドデザイン賞を受賞しました

**GOOD
DESIGN
AWARD
2020**

二次審査委員による評価情報

おくすり手帳や介護情報、医療情報など、健康に関する管理書類は、なぜか今までそれぞれバラバラに存在していた。それをとても簡単な方法で一冊にまとめ普及させようという取り組み。まずはリリースし広げた行動力に地域包括ケアの未来を感じ、大いに評価した。全国でも同じ様な取り組みが進むことを期待したい。

【概要】

地域包括ケアシステム構築に向けた医療介護におけるアナログの情報共有ツールとして開発したが、人生会議や救急医療の情報も含めた。

母子手帳などの規格統一により、一生涯利用できる健康管理手帳として普及をめざしている。

また、一般市民が所持する事で、災害時は公的機関が有するデジタル(ビッグ)データを補完する事が可能である。

【デザインのポイント】

- 1.5疾患の連携パスを統合し、医療・介護・福祉など多職種での利用を可能とした世界初の手帳である。
2. パーソナルデータを本人同意のもと積極的に関係者に開示する仕組みにより、上質なサービスを享受できる。
3. Society5.0 を補完するアナログ・ツールとして、社会的課題に対応可能な汎用性と拡張性がある。

第33回 事例検討会開催！

荒尾市権利擁護推進センター

荒尾市社協成年後見センター センター長 野尻大輔

「病院・施設等における成年後見人等の役割について」

第33回荒尾市在宅医療連携室事例検討会において、「成年後見制度」をテーマとして講演させていただきました。当日は医療福祉関係者58名の方にご参加いただき、ありがとうございました。改めて成年後見制度への専門職の関心の高さを感じました。

当日は、前半部分で実務と照らし合わせながら、成年後見人等が行うことの出来る業務、行うことが出来ない業務についてお話しさせていただきました。また、後半部分においては被後見人が亡くなった後の死後事務について詳しくご説明させていただきました。本人の意思決定や望む最期については、判断能力がなくなった後では、誰も推し量ることが出来ません。専門職の皆様には本人の判断能力の低下が見られるようになった初期段階で、意思決定支援についてご検討いただければと思います。また、その際には、荒尾市権利擁護推進センターや荒尾市役所担当課等の相談窓口を是非ご活用下さい。

成年後見制度は平成12年の介護保険制度施行に合わせてスタートしました。当初は介護保険制度と合わせて「車の両輪」として例えられましたが、制度スタート後20年が経過した現在でもその認知度は低く、未だ「両輪」にはなり得ていないと実感しています。一人でも多くの方の権利擁護が図られるよう、「成年後見制度が身近に感じられる荒尾市」を専門職の皆様と共に作っていただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



第58回医療・病院管理学会学術総会

令和2年10月3日(土) Web開催に参加しました

「One Team Arao による地域包括ケアシステムに向けた取り組み～熊本県荒尾市」

座長 伊藤 弘人 (独立行政法人 労働者健康安全機構)

座長 安武 綾 (熊本大学大学院生命科学研究部(保健学系)地域看護学)

演者 西山幸喜 (荒尾市民病院 病院建設室)
「新病院建設に期待される荒尾版地域包括ケアシステムへの取り組み」演者 宗 久美 (熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター)
「熊本県荒尾市における医療介護連携の統合を目指した複合慢性疾患連携パスの開発」演者 大嶋俊範 (荒尾市民病院 脳神経内科)
「地域医療連携における『あらお健康手帳』の活用と課題」演者 岩本理歌子 (荒尾市役所 保険介護課)
「地域包括ケアシステム推進に向けた多職種連携における行政の役割」演者 中村光成 (一般社団法人 荒尾市医師会/西原クリニック)
「地域包括ケアシステム構築に向けた One Team Arao の成果と課題」

荒尾市在宅医療連携室 在宅ネットあらお

荒尾市宮内 1092-18 (荒尾市医師会敷地内)

TEL:0968-57-9350 FAX:0968-57-9605

<http://zaitaku.arao-med.or.jp>

ホームページにも掲載しておりますのでご覧ください

担当:青木・浦

